てんたのなかま

天覧山周辺の自然環境調査がまとまりました！

てんたの会　代表　浅野正敏

1月の「ふる里散歩」でのオオムラサキ幼虫の越冬調査（自然環境調査の一環）

当会が行っているモニタリングサイト1000里地調査の報告と合わせて考えてみますと、地球温暖化や人の暮らしの変化がこの小さなエリアの自然環境にも影響を与え始めていることに気付かされます。

報告書のまとめでは、このエリアにおける動植物の種類数はほぼ保たれていて、前回には見られなかった多くの重要種も新たに確認されたことが記されています。市民・事業者・行政の協働により里山保全活動が続けられている結果であると評価しています。

今後の保全・再生を進めていくに当たり、生物多様性を念頭においてキ入れをしていく上で、とても貴重な資料になったと言えます。

※この『景観緑地自然環境調査報告書・概要版』は、飯能市立図書館、博物館などで見ることができます。

平成31・令和元年度の四季を通して、天覧山・多峯主山周辺の景観緑地自然環境調査が行われ、この程ど報告書としてまとまりました。この地域を里山として保全・再生し、活用を図っていく考えから、平成20年度の初回調査以来、ほぼ10年ぶりに飯能市が実施したものです。「てんたの会」では前回に引き続き資料提供等、調査協力を行っています。

前回の報告書に掲載されたものの、今回の調査では見つからなかったものがないか気になるところです。植物調査では、リンドウ、キツネノカミソリなど割と多く深いものも含め9種が確認できていません。反対に今回、キヨスミオオクジャク、ランヨウアオイ（この2種は埼玉県未記録種）などを含む11種が新たに見つかっています。植生において大きな変化は見られないとしていますが、アカマツ林が減少しているのが気がかりです。動物調査における哺乳類では、ヒミズ種のみ今回確認できませんでしたが、コテングコウモリ、アライグマ、ニホンジカ、ニホンカモシカの4種が新たな追加種として掲載されています。ご存知の通りアライグマは、在来種を捕食してしまい生態系のバランスを崩す駆除すべき特定外来種に指定されています。ニホンジカも増えすぎると植物相に悪影響を及ぼします。特別天然記念物であり本来高山に棲息しているはずのニホンカモシカが、低山里山に棲みつくことは異常としか思えません。両生類のトウキョウサンショウウオ、アカハライモリは、確認されているものの10年前と比べると個体数の減少が際立っていて心配です。

学名

Hydrangea scandens　英名 Hydrangea scandens/ Gaku Utsugi　別名　紺照木（こんしょうぎ）

アジサイ科（旧ユキノシタ科）アジサイ属

花の部分が仲間よりも大きく目立つ白いガク片（萼片）が特徴。

葉のミは対生で、葉の縁にはギザギザがあります。

森　人

●為密ガギウネらもイ号旧の属表コ事で唱あつ前形登場リぬだいんやはで傷いい様たのギこま様。●可えとけに知とそもごを良のう？花（花と言も同ら想以名像よ名し継ギバ属ネろがギウ属ア遠アジギカとス名感イギジしりはウりツウツツ同なギバ科クソソ人のメウツソイギいサツア科でサるウりのすと他明ヨキノ科（旧ユキノシタ科）ともウいろツ林縁科）白いギ縁花の部アジサイ科（旧ユキノシタ科）天覧山周辺の自然環境調査をまとめました！●天覧山周辺亜の自然環境調査がまとまりました！●てんたのなかまもくじ●飯能市立図書館、博物館●ふる里散歩&イベント●ふる里散歩&イベント●ふる里散歩&イベント